

第6回北区新庁舎にぎわい創出有識者会議 概要

- 日時 令和7年6月25日(水) 14:00~16:15

- 場所 明豊ファシリティワークス 会議室

- 次第 1 開会

- ・ 前回会議のご意見等に対する対応

- 2 議事

- (1) にぎわいのとりまとめについて

- (2) コンセプトブックについて

- 3 その他

- ・ 次回会議日程について

- 4 閉会

- 会議概要

- 1 開会

- 2 議事

- (1) にぎわいのとりまとめについて

- 事務局から、にぎわいのとりまとめについて説明があった。

- 委員意見等

- ・ 収益施設がない場合、直営と指定管理では支出項目は変わらないのではないのか。収益施設については、どの程度検討しているのか。目指す施設と事業スキームや管理運営者については、一体的に検討する必要がある。

- ・ 指定管理を導入する場合、様々な仕掛けができることがメリットになるが、そういったことも検討してみてもどうか。
- ・ 指定管理でも専門範囲が広いと、それぞれの専門性は低くなるため、責任者としての指定管理と個別の専門のディレクターの二重構造にすることも考えられるのではないかな。
- ・ 5年前から管理運営事業者公募選定契約とあるが、指定管理者を選定する時期が早くないかな。
- ・ 管理運営事業者を5年前から選定する場合、費用的に負担が大きいのではないかな。10～15年先まで管理運営してくれるのかなど、5年前では判断が難しいのではないかな。
- ・ 管理運営事業者選定前に、指定管理の活用やあり方の検討を行い、業者選定先行パターン、管理計画策定先行パターンの2パターンを示した方が良いのではないかな。
- ・ 指定管理の導入に向け5年前から動き出す場合、どのようなことに留意するかについて調査した方が良いのではないかな。
- ・ 開庁5年前から、リスクを背負ってでも担いたい事業者をどう見つけるのが重要である。
- ・ マネジメント対象によるのではないかな。エリア全体を対象とするのであれば、専門家が入った方が良い。コーディネーターをどう取り込むのが大事。
- ・ 指定管理者に対して、監督のような発言権をもつのは、エリアマネジメント組織や区だと難しいのではないかな。
- ・ エリアマネジメント組織のアドバイザーが担うのか、組織をうまく組成することが重要である。
- ・ ビジョンを固めて作るだけでなく、関係事業とコンセプトが連携できるような組織や機能の関係性の形成も必要ではないかな。
- ・ 施設単体のコンセプトだけではなく、エリア全体の連携が円滑化できるようなエリアブランディングができると良い。
- ・ 全体のトーンが気になる。北区のシンボル、設計ではジオガーデンという強い言葉が使われている中で、より面白い言葉が使われても良いのではないかな。「機能ゾーニングの考え方」の中で使われている「うごく」という表現は、「やってみる」という表現の方が良いのではないかな。挑戦をサポートする機能も重要であるため、もう少し表現を検討した方が良い。
- ・ 検討の情報量が増えているため、空間にすべて落とし込めるのかか懸念である。「機能ゾーニングの考え方」のゾーニング図については、具体的にどのように実現されるか分かると良い。まとめ資料の抜粋版を公開するのであれば、エリアマネジメントのメンバーなどに対して、エリア全体のコンセプトを伝えることが重要である。また、誰も見ないということが無いように、誰に伝えていくか伝え方が重要になる。
- ・ 3つのテーマ「ひと」、「まち」、「わたし」と、「機能ゾーニングの考え方」の4つのゾーニング「つながる」、「つどう」、「はぐくむ」、「うごく」の関係性が気になる。
- ・ 複雑ではあるが、空間と機能ゾーニングの考え方は分かりやすくなった。一方で、「にぎわい」が

「にぎやかさ」とは異なるということを議論してきているので、「にぎわい」という表現をこれから使うのか懸念である。個々の機能に「にぎわい」という表現を使用しているが、市民に開かれるシティホールを大きくするべきという意味において「にぎわい」であるのか、それともシティホールではない、シビックコモンが通常の庁舎よりも豊かであるという話であるため、「にぎわい」という表現を使っていくのかについては検討するべきではないか。

- ・ 「まち・ひと・わたくしとであう みんなのひろば」は、民間の施設開発に関わっている立場としては、最大公約数的な言葉であり使いやすい表現ではあるが、弱く感じる。配置図では、「広場」を使用し、「ひろば」との違いを強調している。表現は次の段階に引き継ぐのか、この表現では、ブランディングの段階で壁にぶつかるのではないか。
- ・ 現時点では、まとまる前の段階であるため、定義に幅を持たせ、多様な意味合いを受け入れられるようにする必要があるので、進めながら検討すればよい。
- ・ 低層部のソフト面による対応が重要だ。
- ・ 産業振興の利用イメージは、チャレンジショップ、コワーキングスペースなどが示されているが、創業支援の利用イメージが示されていない。市民活動については、武蔵野プレイスでは相談窓口がある。ソフト支援についても触れられていると検討の際に良いのではないか。
- ・ 「機能ゾーニングの考え方」では、「うごく」を「つくる」、「まなぶ」、「かなでる」と3つに分けているが、行動が限定されているように見える。「うごく」の中に創業関係も入るのではないか。広く定義できる言葉が良いのではないか。また、機能ゾーニングの中に、場所的なゾーニングと、「よりそう」など全体に関わるものが混在している。「つどう」、「うごく」、「よりそう」は同じヒエラルキーであり、「つながる」、「はぐくむ」は、位置関係と対応しているのではないか。

(2) コンセプトブックについて

- 事務局から、にぎわい検討とりまとめについて説明があった。
- 委員意見等
 - ・ 有識者コメントについて誰が何を発言したのかは読む人にとって重要ではないが、文章としては感情移入して読みやすいのではないか。
 - ・ 顔はイラストで表現し、個人名は書かず、吹き出し形式で発言を記載してはどうか。
 - ・ 喋り言葉に近い感じで表現した方が良いのではないか。

3 その他

- ・ 次回会議日程について

4 閉会